（７）「大学院設置基準」第 14 条による教育方法の特例

本専攻では、平日に加えて土、日曜日及び祝日にも授業を開講し、いずれの曜日も授業は昼夜間開講とする。さらに長期休業中等に短期間で実施される集中講義の開講や遠隔講義を実施し、現職教員・社会人でもそれぞれの勤務スタイルに合わせた形で履修が行えるカリキュラムを提供する。

ただし、夜間開講科目の履修は、原則として、「職業を有している等のために一般の学生に比べて年間に修得できる単位数が限られ、標準の修業年限で修了することが困難な学生」を対象とする。

（８）長期履修制度

長期履修制度は、「職業を有している等のために一般の学生に比べて年間に修得できる単位数が限られ、標準の修業年限で修了することが困難な学生」を対象とし、事情に応じて標準の修業年限を超えて計画的に教育課程を履修し修了することにより、学位を取得することが可能となる制度である。

長期履修学生に認定された者は、長期履修期間に関係なく、標準修業年限（２年）分の授業料で修学することができる。

長期履修制度を希望する学生は、入学年度の４月の定められた期日までに「長期履修学生申請書」を提出すること。

①長期履修期間の短縮

長期履修期間の短縮を希望する者は、希望する短縮後の長期履修期間の末日の１年前までに、別に定める様式により申し出なければならない。ただし、教育学術論文（修士論文相当）の提出を希望する者の申し出期日は、希望する短縮後の長期履修期間の末日の２年前までとする。

②長期履修期間の延長

長期履修期間の延長は、就業環境の変化等、本人の責に帰さない特別な事情を有する場合で、研究科において必要と認めるときのみ、１回に限り可能とする。

長期履修期間の延長を希望する者は、長期履修期間の終了年度の１０月末日までに別に定める様式により申し出なければならない。

６．教育職員免許状（専修免許状）

幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校（養護学校）及び養護教諭、栄養教諭の一種免許状を所有する者で当該専修免許状の取得を希望する者は、当該免許の種類と対応する科目を２４単位以上修得することにより、本専攻修了時に、所有する一種免許状に対応する「専修免許状」の取得資格を得ることができる。

特別支援学校教諭専修免許状と同時に他種の免許状を取得するためには、修了単位の他に別途単位を取得することが必要となる。（詳細は p.15 ※４参照）

取得できる免許状は、以下のとおりである。

（１）取得可能免許状及び免許状対応科目について

① 取得可能免許状

幼稚園教諭専修免許状	
小学校教諭専修免許状	
中学校教諭専修免許状	国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、保健、技術、家庭、職業、職業指導、英語、中国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、韓国・朝鮮語、アラビア語、宗教
高等学校教諭専修免許状	国語、地理歴史、公民、数学、理科、音楽、美術、工芸、書道、保健体育、保健、看護、家庭、情報、農業、工業、商業、水産、福祉、商船、職業指導、英語、中国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、韓国・朝鮮語、アラビア語、宗教
栄養教諭専修免許状	
養護教諭専修免許状	
特別支援学校教諭専修免許状	知的障害者に関する教育の領域・肢体不自由者に関する教育の領域・病弱者に関する教育の領域

② 各科目の免許科目への対応について

「７．開講科目一覧」の免許状対応科目を確認の上、取得希望の専修免許状に対応する科目を２４単位以上修得する。

7．開講科目一覧（免許状対応科目一覧）

科目区分等		科目名	単位数	履修年次	幼専修免許状対応	養・栄専修免許状対応	小専修免許状対応	中・高専修免許状対応	特別支援学校専修免許状対応
共通科目	教育課程の編成・実施に関する領域	社会に開かれた教育課程とカリキュラムマネジメント	2	1～2	○	○	○	○	
		特別支援教育のカリキュラムマネジメント	2	1～2					○
	教科等の実践的な指導方法に関する領域	授業デザインの理論と実践	2	1～2	○	○	○	○	
		特別支援教育の授業デザイン	2	1～2					○
	生徒指導、教育相談に関する領域	子どもの理解と支援	2	1～2	○	○	○	○	
	学級経営、学校経営に関する領域	学校マネジメントとリーダーシップ	2	1～2	○	○	○	○	
		学級経営・学級指導の理論と実践	2	1～2	○	○	○	○	
		特別支援学校の組織マネジメント	2	1～2					○
	学校教育と教員の在り方に関する領域	特別支援教育コーディネーターの役割と課題	2	1～2					○
		専門職としての教員の職能発達	2	1～2	○	○	○	○	
	神奈川の教育課題	EdTech を活用した授業の方法	2	1～2	○	○	○	○	
		インクルーシブ教育の理論と課題	2	1～2					○
		教育改革の現状と神奈川の教育事情	2	1～2	○	○	○	○	
プログラム共通選択科目		「資質・能力」育成のための理論と実践	2	1～2	○	○	○	○	
		学びと授業づくりの心理学	2	1～2	○	○	○	○	
		特別活動の理論と実践	2	1～2		○	○	○	
		総合的な学習の理念とカリキュラム開発	2	1～2		○	○	○	
		グローバル化に対応した教育	2	1～2	○	○	○	○	
		人間社会と科学	2	1～2		○	○	○	
		情報モラルと著作権教育	2	1～2	○	○	○	○	
		消費者教育・ＥＳＤの理念と実践	2	1～2		○	○	○	
		幼児理解の理論と実践	2	1～2	○				
		学校健康教育	2	1～2	○	○	○	○	
		食教育の理論と実践	2	1～2	○	○	○	○	
		教職キャリア開発の方法	2	1～2	○	○	○	○	
プログラム別選択科目	学校マネジメントプログラム選択科目	教育相談体制とカウンセリング	2	1～2	○	○	○	○	
		スクールリーダーシップの事例研究	2	1～2	○	○	○	○	
		レッスンスタディーとアクションリサーチ	2	1～2	○	○	○	○	
		行政研修の企画・運営	2	1～2	○	○	○	○	
		学校運営と危機管理の実際	2	1～2	○	○	○	○	
		同僚性の構築に関する理論と実践	2	1～2	○	○	○	○	
		課題フィールドワーク	2	1～2	○		○	○	
		学校マネジメントの高度教育研究方法論	2	1～2					

科目区分等		科目名	単位数	履修年次	幼専修免許状対応	養・栄専修免許状対応	小専修免許状対応	中・高専修免許状対応	特別支援学校専修免許状対応
プログラム別選択科目	教科教育・特別支援教育プログラム選択科目	国語の授業デザイン論と教材デザイン論	2	1～2				○ (中・高：国語)	
		国語の教材デザイン論と実践Ⅰ（文字・言語）	2	1～2				○ (中：国語) (高：書道)	
		国語の教材デザイン論と実践Ⅱ（文学・テクスト）	2	1～2				○ (中・高：国語)	
		国語の高度教育研究方法論	2	2					
		社会系教科の授業デザイン論と教材デザイン論Ⅰ	2	1～2				○ (中：社会) (高：公民)	
		社会系教科の授業デザイン論と教材デザイン論Ⅱ	2	1～2				○ (中：社会) (高：地理歴史)	
		社会系教科の高度教育研究方法論	2	2					
		生活科・総合の授業デザイン論と実践	2	1～2		○	○	○	
		生活科・総合の高度教育研究方法論	2	2					
		数学の授業デザイン論と実践	2	1～2				○ (中・高：数学)	
		数学の教材デザイン論と実践	2	1～2				○ (中・高：数学)	
		数学の学習指導と評価	2	1～2				○ (中・高：数学)	
		数学の高度教育研究方法論	2	2					
		理科の授業デザイン論と実践	2	1～2				○ (中・高：理科)	
		理科の教材デザイン論と実践	2	1～2				○ (中・高：理科)	
		理科の高度教育研究方法論	2	2					
		音楽の授業デザイン論と実践	2	1～2				○ (中・高：音楽)	
		音楽の教材デザイン論と実践	2	1～2				○ (中・高：音楽)	
		音楽の高度教育研究方法論	2	2					
		美術科の教材デザイン論と実践Ⅰ	2	1～2				○ (中・高：美術)	
		美術科の教材デザイン論と実践Ⅱ	2	1～2				○ (中・高：美術)	
		美術科の実践演習	2	1～2				○ (中・高：美術)	
		美術科の高度教育研究方法論	2	2					
		保健体育の授業デザイン論と実践	2	1～2				○ (中・高：保健体育)	
		保健体育の教材デザイン論と実践	2	1～2				○ (中・高：保健体育)	

科目区分等		科目名	単位数	履修年次	幼専修免許状対応	養・栄専修免許状対応	小専修免許状対応	中・高専修免許状対応	特別支援学校専修免許状対応
プログラム別選択科目	教科教育・特別支援教育プログラム選択科目	保健体育の学習指導と評価	2	1～2				○ (中・高：保健体育)	
		保健体育の高度教育研究方法論	2	2					
		技術の授業デザイン論と実践	2	1～2				○ (中：技術) (高：工業)	
		技術の教材デザイン論と実践	2	1～2				○ (中：技術) (高：工業)	
		技術の実践演習	2	1～2				○ (中：技術) (高：工業)	
		技術の高度教育研究方法論	2	2					
		家庭科の教材デザイン論と実践Ⅰ	2	1～2				○ (中・高：家庭)	
		家庭科の教材デザイン論と実践Ⅱ	2	1～2				○ (中・高：家庭)	
		家庭科の学習指導と評価	2	1～2				○ (中・高：家庭)	
		家庭科の高度教育研究方法論	2	2					
		英語科の授業デザイン論と実践	2	1～2				○ (中・高：英語)	
		英語科の教材デザイン論と実践	2	1～2				○ (中・高：英語)	
		英語科の学習指導と評価	2	1～2				○ (中・高：英語)	
		英語科の高度教育研究方法論	2	2					
		特別支援教育と評価	2	1～2					○
		特別支援教育実践演習Ⅰ	2	1～2					○
		特別支援教育実践演習Ⅱ	2	1～2					○
		特別支援教育の内容と実践A	2	1～2					○
		特別支援教育の内容と実践B	2	1～2					○
		特別支援教育の内容と実践C	2	1～2					○
		特別支援教育高度教育研究方法論	2	2					
附属学校教員特別プログラム専門科目		教育実習指導の実践研究	2	1～2	○	○	○	○	
		実践研究のマネジメントⅠ	2	1～2	○	○	○	○	
		実践研究のマネジメントⅡ	2	1～2	○	○	○	○	
		学校研究のための教材研究	2	1～2	○	○	○	○	
		学校研究のためのカリキュラム開発	2	1～2	○	○	○	○	
		学校研究のための授業研究	2	1～2	○	○	○	○	
		特別支援学校教育実習指導の実践研究	2	1～2					○
		特別支援教育実践研究のマネジメントⅠ	2	1～2					○

科目区分等	科目名	単位数	履修年次	幼専修免許状対応	養・栄専修免許状対応	小専修免許状対応	中・高専修免許状対応	特別支援学校専修免許状対応
附属学校教員特別プログラム専門科目	特別支援教育実践研究のマネジメントⅡ	2	1～2					○
	特別支援学校研究のための教材研究	2	1～2					○
	特別支援学校研究のためのカリキュラム開発	2	1～2					○
	特別支援学校研究のための授業研究	2	1～2					○
学校実習科目	教育課題発見実地研究	2	2			○	○	
	教育課題解決実地研究	2	2			○	○	
	教職専門実地研究Ⅰ	5	1			○	○	
	特別支援教育教職専門実地研究Ⅰ	5	1					○
	教職専門実地研究Ⅱ	5	2			○	○	
	特別支援教育教職専門実地研究Ⅱ	5	2					○
	教職専門実地研究Ⅲ	6	1					
	教職専門実地研究Ⅳ	8	1					
	教職専門実地研究Ⅴ	10	1					
	授業改善実地研究	2	2			○	○	
	特別支援教育授業改善実地研究	2	2					○
課題研究	学校課題解決研究A	2	1	○		○	○	
	学校課題解決研究B	2	1	○		○	○	
	学校課題解決研究Ⅰ	2	2	○		○	○	
	学校課題解決研究Ⅱ	2	2	○		○	○	
	学校課題解決研究A（特別支援教育）	2	1					○
	学校課題解決研究B（特別支援教育）	2	1					○
	学校課題解決研究Ⅰ（特別支援教育）	2	2					○
	学校課題解決研究Ⅱ（特別支援教育）	2	2					○

本科目及び単位数は、横浜国立大学大学院教育学研究科規則第２条３項に定めるものである。（令和３年３月 22 日教授会決定）

※１　履修年次は、標準修業年限２年の者が対象である。短期履修・小学校教員免許取得プログラム（標準修業年限３年）、「大学院設置基準」第 14 条の特例適用者、長期履修の学生はこの限りではない。

※２　複数の学校種・教科（一種免許状取得済み）の専修免許状を取得する場合でも、取得希望の免許状に対応する科目を、合計２４単位修得することで複数の専修免許状が取得可能である。

※３　教科教育・特別支援教育プログラム選択科目の中高免許状対応科目は、以下のとおり、該当教科の免許状にのみ対応している。

国語：「国語の授業デザイン論と教材デザイン論」・「国語の教材デザイン論と実践Ⅱ（文学・テクスト）」は、
中学校（国語）、高等学校（国語）
「国語の教材デザイン論と実践Ⅰ（文字・言語）」は、中学校（国語）、高等学校（書道）

社会：「社会系教科の授業デザイン論と教材デザイン論Ⅰ」は、中学校（社会）、高等学校（公民）
「社会系教科の授業デザイン論と教材デザイン論Ⅱ」は、中学校（社会）、高等学校（地理歴史）

生活：小学校、中学校（全教科）、高等学校（全教科）

数学：中学校（数学）、高等学校（数学）

理科：中学校（理科）、高等学校（理科）

音楽：中学校（音楽）、高等学校（音楽）

美術：中学校（美術）、高等学校（美術）

保健体育：中学校（保健体育）、高等学校（保健体育）

技術：中学校（技術）、高等学校（工業）

家庭科：中学校（家庭）、高等学校（家庭）

英語：中学校（英語）、高等学校（英語）

※４　特別支援学校専修免許状と同時に他種の免許状を取得するためには、修了単位の他に別途単位を取得する必要がある。所属するサブグループによってはカリキュラムの都合上、難しい場合があるため、希望する場合は、必ず大学院係に相談すること。